



郁舜

博士、パートナー、シニア弁理士、
弁護士

使用言語：中国語、英語

実務経験：

特許早期警戒、特許調査、特許出願、復審請求、無効審判、侵害訴訟、戦略レイアウトなどの知的財産の各業務分野を得意とする。半導体、マイクロエレクトロニクス、集積回路、電力、部品、電池、コンピュータ通信、機械などの技術分野における豊富な専門的知識及び特許代理経験を持つ。2006年に国家知識産権局専利局の電気学発明審査部にて審査官を担当してから、300件余りの発明特許を審査し、専利復審委員会に務めている間に200件余りの復審、無効、行政訴訟案件を結審した。そして、多くの国内外有名な企業に品質の高い特許サービスを提供しており、多くの無効案件と訴訟案件を代理した。

郁舜先生は、中国の弁理士資格、弁護士資格を持っている。

職歴：

隆諾律師事務所、隆天知識産権代理有限公司、パートナー、シニア弁理士、弁護士
国家知識産権局専利復審委員会、合議体リーダー、審査官
TCL マルチメディア事業部、アシスタントエンジニア

教育・研修歴：

法学博士、中国政法大学、知的財産法学専攻
法学修士、中国政法大学、民商法学専攻
公共管理修士、清華大学、公共管理専攻
工学の二重学士、電子科技大学、電子科学及び技術専攻、工業工程専攻

研究及び講演：

講演 「特許品質改善プロジェクトの下での代理機構と企業の協力及びウィンーウィンの達成」, 2018年1月, 北京, 第8回中国国際知的財産新年フォーラム及び2018中国知的財産管理者年次総会

「標準特許侵害問題の研究」, 知的財産法学博士論文

「特許手続における電子証拠の認定規則に関する検討」, 『中国特許と商標』, 2018年

「特殊事情の請求範囲の解釈に関する研究」, 中国政法大学法学修士論文, 2013年

「図形ユーザーインターフェースの客体審査の思考について」, 国家知識産権局『審査業務通信』, 2012年

「商業方法特許の審査基準の探求」, 国家知識産権局『審査業務通信』, 2012年

「特許無効と権利侵害紛争手順を効果的につなげることについての研究」, 国家知識産権局専利復審委員会の課題を担当・参与, 2011年

「企業の特許戦略の選択——価値向きの立場から」, 『意思決定と情報』, 2011年

「パッケージ分野の特許早期警戒分析」, 国家知識産権局の自主的な課題を担当・参与, 2009年

「オリンピック知的財産比較法に関わる研究」, 『意思決定と情報』, 2009年

社会活動：

中国知的財産権研究会の理事

最高人民法院知的財産案例基地に選ばれた第1陳の専門家

第2陳の陝西省重大経済活動知的財産分析評議の専門家

国家知識産権局専利局「優秀公務員」称号を取得

使用言語：

中国語、英語